

【高精細カラー版】 原本を体感

平安貴族が書き継いだ克明な日記を  
手にとって調査・鑑賞する

墨朱濃淡・料紙の質感等  
原本の様態を精緻に再現

前田育徳会尊経閣文庫編

# 尊経閣善本影印集成

第八輯

平安古記録

全十一冊

【編集委員】

加藤友康・尾上陽介

【所収書目】 全五点

小右記

水左記

台記

平安末鎌倉初期写三十七卷（重要文化財）

平安後期自筆二卷（国宝）・室町写一冊

〔宇槐記抄 室町写三冊〕

宇槐雑抄 室町写一冊

台記抄 室町写一冊

SONKEIKAKU ZENPON EIINSHUSEI  
HEIAN KOKIROKU

A Facsimile series of important classics in the  
Sonkeikakubunko.

The books written in the 10-12th century  
HEIAN Authorities diary.

内容見本

八木書店

# 刊行の辞

前田育徳会理事長  
尊経閣文庫 石田寛人

石田寛人

前田育徳会尊経閣文庫は、大正十五年（一九二六）二月二十六日に、前田家第十六代御当主であった前田利為侯が設立した公益財団法人です。利為侯は大正十二年の関東大震災により多くの文化財が焼失したことを目の当たりにして、前田家が所蔵する貴重な文化財を後世に確実に伝えることを意図して財団を創設しました。

当初財団の目的は、加賀前田家に伝来する貴重な古典籍を原裝複製して研究機関等に広く無償頒布することにあります。その一環として『尊経閣叢刊』が刊行され、その数は大正十五年六月の『古語拾遺』から昭和二十七年（一九五二）七月の『建治三年記』まで六十四点に及び、現在でも国文学・歴史学などの研究資料として広く活用されています。

この間財団は前田家より所蔵文化財の寄贈を受け、その保存管理が主要な事業になりましたが、平成に入って『尊経閣叢刊』を引き継ぐ複製刊行事業が企画され、八木書店の御協力を得て、『尊経閣善本影印集成』の編纂刊行が開始されました。平成五年（一九九三）十二月の第一輯第一冊『西宮記』の刊行以来、専門研究者の御尽力を賜りながら、全七輯計五十五冊が刊行されています。

このたび、『尊経閣善本影印集成』第八輯として、国宝『水左記』・重要文化財『小右記』など、財団が所蔵する平安古記録を十一冊に編成し、高精細カラー版で影印刊行することになりました。奇しくも第八輯刊行が始まる平成二十八年（二〇一六）は財団創立九十周年にあたり、その記念すべき年にオールカラー版として装いを新たにした事業が開始できることは感慨深いものと存じております。

最後に、第八輯の編集委員・解説執筆をお引き受け下さった加藤友康先生・尾上陽介先生、解説執筆を御快諾下さった石田実洋先生、『尊経閣善本影印集成』刊行の継続に御理解・御協力下さった八木書店に感謝いたします。

## 第八輯 平安古記録

— 平安貴族の日記を読む —

平安時代史の研究は、「古記録」と呼ばれる平安貴族たちが残した日記の分析・研究を措いては成り立ちがたい。平安時代の政務や儀式、また文化や社会の構造の実態を解明し、平安貴族の行動様式を解析するときに欠くことのできない、貴族社会の実態を記した貴重な史料といえる。文字によって記され情報伝達の機能をもった文献史料のうち、特定の発信者と受信者との間に意思の伝達を行なう目的の古文書や、特定の意図をもって不特定多数に対して情報の伝達を行なう著作物とは異なり、日記は公私を問わず後世への情報の伝達という要素はあるものの、原則として自己の備忘のために日々記されたものである。

日記は、公的な日記と私的な日記に大別できる。公的な日記とは官人の職務に伴って記録されるもので、「外記日記」や「殿上日記」が代表的なものである。一方、私的な日記を記すことは、九世紀以降、天皇や貴族層の間でも盛んに行なわれるようになっていく。貴族の日記に記載された内容は、主として公事である宮廷の政務・儀式の記録であって、彼らがのちのちの参考とするために記録したという性格が強いものであった。そのため、第八輯に収録する『小右記』のように六十年以上にわたって書き継がれた日記もあった。

日記は政務・儀式に参画する記主の視点から記述されるという限界をもつが、それ以上に来来事の推移を明らかにし、その全体像を理解できることが長所である。『小右記』の記主藤原実資は、上卿としての職掌とかかわって陣定に参加した公卿たちの発言や定文を書き記し、太政官符発給の宣者となったことによつてそれを書き残しており、のちの利用を想定し情報を保存していく意欲をみることができている。保存された情報は子孫へと伝領され、彼らもそれを利用してい

た。藤原道長の『御堂閔白記』自筆本の検証から、利用の利便性のため後世折本状にされその後現状の卷子状に改められたことも指摘されている。このような事例にとどまらず自筆本はさまざまな情報をもたらしてくれる。「家記」として日記が伝領され、それを伝える「日記の家」があらわれてくる一方で、日記の写本が作成され貴族社会に流布したことは、時代とともに先例として日記に引かれる日記の種類・数量が拡大していくことによつても知ることができ、それはまた日記そのものの貸借や書写抄出による情報提供などを通じて貴族社会のネットワークを分析する有効な素材ともなる。

一九七〇年代までは「特殊な研究分野」とされてきた日記研究の近年における展開は、『史料大成』に加えて『大日本古記録』『史料纂集』などの翻刻史料集の刊行の進捗や、影印本の刊行、逸文の収集など、研究環境の整備がその基礎にある。今回影印刊行される『小右記』『水左記』『台記』（『宇槐記抄』『宇槐雑抄』『台記抄』）はいずれも日記のあり方の諸類型を示す良質な貴重な史料である。『小右記』は自筆本が存在しないなかでもつとも古い写本の一つであり、写本作成段階での朱書による見出し・誤写の校訂・傍注を高精細カラー印刷によつて鮮明に見ることができるようになった。また具注暦に記された源俊房の『水左記』自筆本からは多様な書き入れの形態も知ることができ、新しい歴史情報を得ることができよう。さらに儀式の詳細な記録を書き留めている藤原頼長の『台記』の室町期の抄出本である『台記抄』での正月除目の類聚をはじめとして、抄出本によつて本記の欠失を補うことができるものもある。今回の影印刊行は平安時代日記研究のより一層の成果を生み出す契機となるであろう。

明治大学大学院文学研究科特任教授

加藤友康



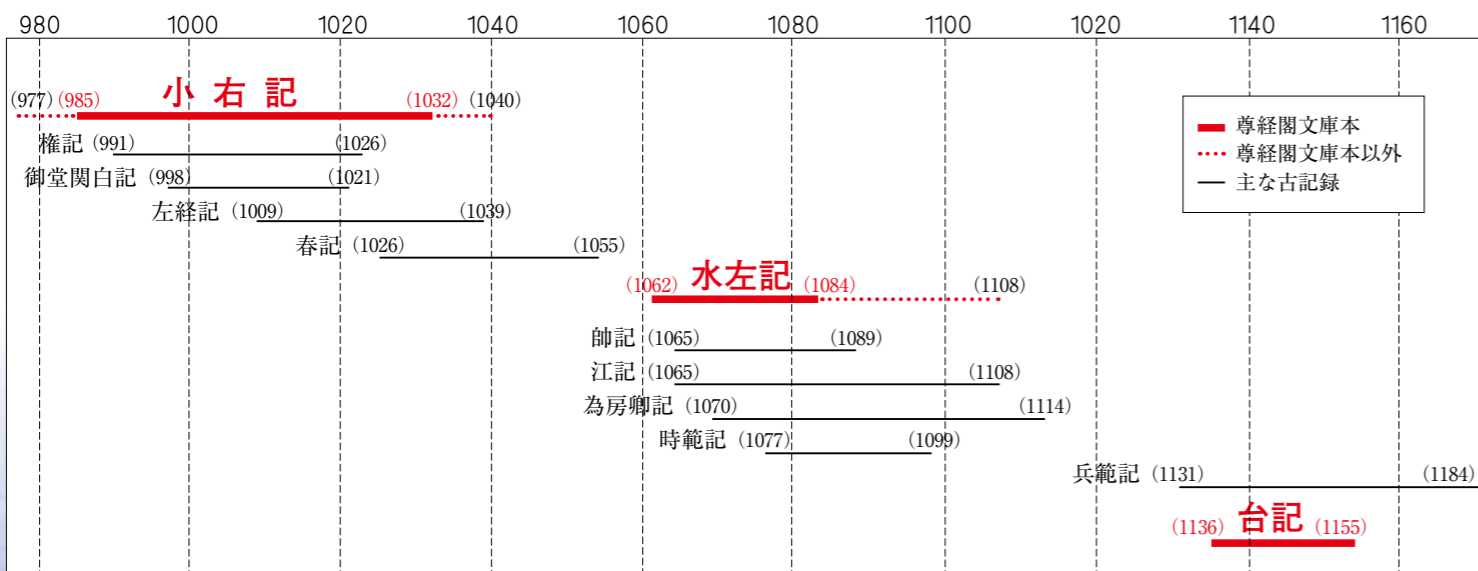
水左記

## 尊経閣文庫について

「尊経閣文庫」は正式には公益財団法人前田育徳会の通称である。前田育徳会の前身である育徳財団は、大正十五年（一九二六）二月二十六日、加賀前田家第十六代当主前田利為により設立された。「尊経閣文庫」は、収蔵品の中核ともいえるべき第五代当主前田綱紀の蔵書名「尊経閣蔵書」に因んで名付けられたとされる。文庫が収蔵・管理する文化財は、大別して美術工芸品・典籍文書類・建造物から成り、そのうち国指定文化財は、国宝二十二件・重要文化財七十七件を数え、わが国の特殊図書館（古典文庫）の中では質量ともに群を抜いている。架蔵する典籍文書類は、国書約七千五百部、漢籍約四千部、文書約二千五百点を数え、一定条件のもとで研究者の閲覧に供している。



主な平安古記録の収録年表



◆藤原氏全盛期の平安中期の基本史料

【第56冊】第64冊（全9冊）  
第1回〜第4回・第7回〜第11回配本

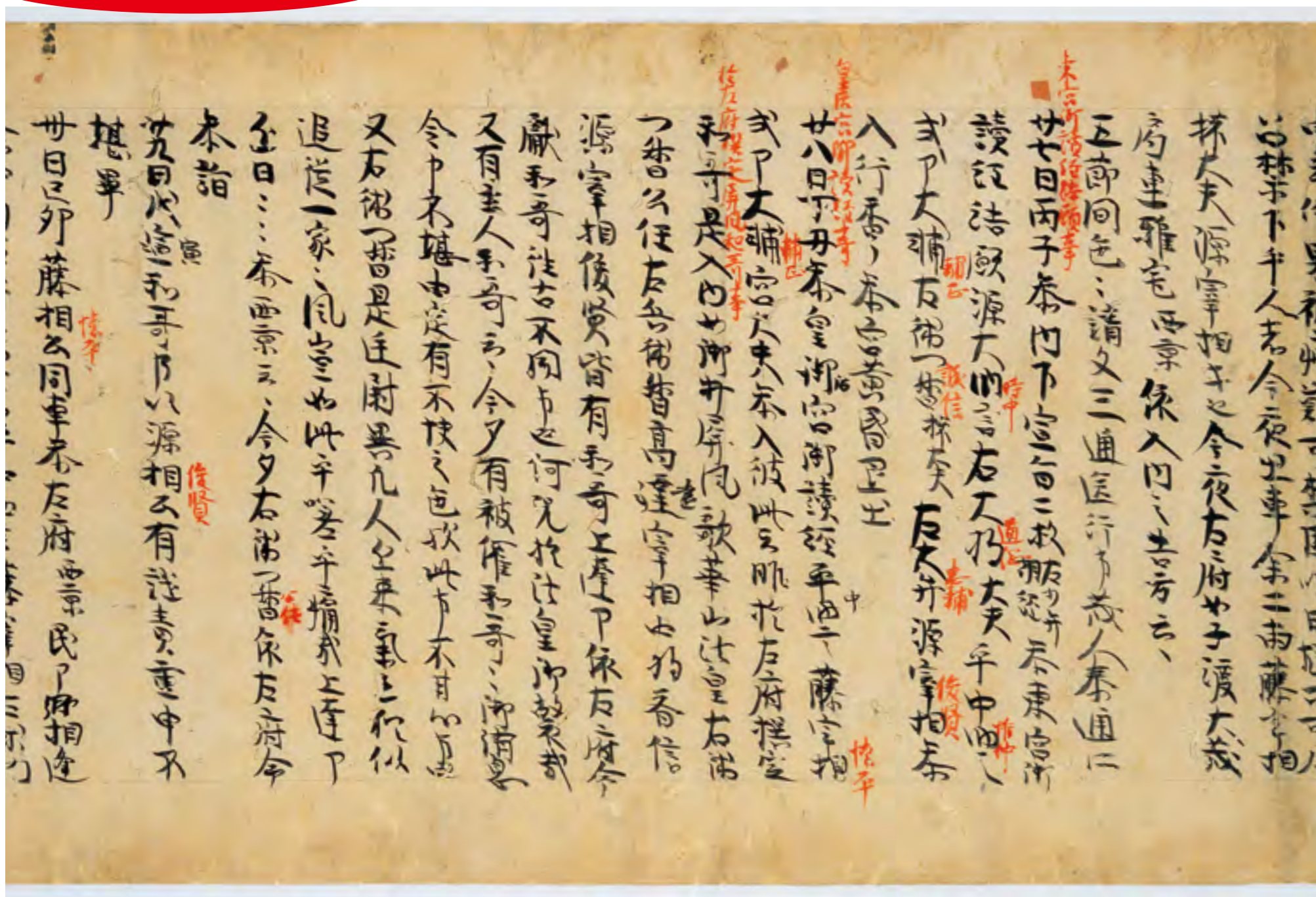
小右記 三十七巻  
平安末鎌倉初期写 〈重要文化財〉

〔解説〕加藤友康（明治大学大学院文学研究科特任教授）

平安時代中期の公卿、藤原実資（九五七〜一〇四六）の日記。著者の出自と政治的位置に伴う情報の豊かさや正確さ、それを記録する意欲の強さと表現能力の高さを兼備し、貴族の日記として代表的であるだけでなく、平安中期の基本的な史料として貴重。政治・儀礼・社会・家族・宗教・文化などの実態を知る最高の史料。

尊経閣文庫では、古写本として全三十七巻を所蔵。本史料の自筆本は現存しないが多量の伝本があり、なかでも平安・鎌倉時代の書写になる尊経閣文庫所蔵本は伏見宮家旧蔵本、九条家旧蔵本（ともに宮内庁書陵部所蔵）などと並んでもっとも古く、質・量ともに極めて優れた古写本といえる。

甲巻四 長保元年 十月二十五日・二十七日・三十日



一三二



藤原道長の除目への批判（『小右記』長和三年〔1014〕正月17日条）

道長による除目を「太汎愛」（とても平等な除目〔人事〕だ）と皮肉っており、「乱代之極又極也、悲哉」（乱れた世の中の果ても果てた。悲しいかな）と憂えている。

道長の専横を非難する（『小右記』長保元年〔999〕10月28日条）

藤原道長が、花山法皇や藤原公任ら公卿へ、入内した影子のために屏風歌を献ずるよう命じた。その専横ぶりを、藤原実資が非難している。

編集方針

高精細カラー版

尊経閣文庫の蔵書から、主に日本語・日本文学、日本史に関する資料的価値の高い善本を選択し、高精細カラー版オフセット印刷により影印する。

◆本集成は公益財団法人前田育徳会尊経閣文庫が責任編集を行い、収録書目の内容等によって数冊に分けて編成、逐次刊行し広く学術的な調査研究に資せんとするものである。

◆第八輯所収の原本は卷子及び冊子であるが、判型は利用の便・可読性を考慮し、A4判横本を採用した。

◆影印本文の各頁には書名・巻次・年月日等の柱を掲出し、卷子本の紙数・冊子本の丁付を本文下欄に表示し、利用の便を図る。

◆解説はすべて新規書き下ろし

◆各冊末尾に、収録した原本についての形態・紙数等の概要、また簡明にして正確な記述を主眼に置いた当該書目の解説を収載する。小右記については、各冊に附載、および原本の法量を掲載し、最終冊に解説を収載する。

◆各書目の解説は、各々の書目について専門的知見を有する加藤友康氏（明治大学）、尾上陽介氏（東京大学史料編纂所）を編集委員・解説執筆者として、くわえて、石田実洋氏（宮内庁書陵部）に解説の執筆を依頼した。

印刷・造本

高精度のカラー撮影

◆刊行に際し、新たに所収原本のすべてについて、厳密なカラー撮影を実施。



尊経閣文庫での原本撮影  
書籍版面でのトリミングを加味し、1ページずつ新たにカラー撮影。

最新・最高度の製版

◆最新の高精細製版仕様、イクオス・スーパーセル（二六〇線）を採用。

◆色校正は、原本と照合点検の上、その再現に厳密を期す。

厳密な色の再現

◆影印本文は、ハイブリッドUVシステムによる高精細カラー印刷とする。

印刷立会いによる最終チェック

◆印刷時には、小社編集担当者が立会い、各台（八頁）刷り出し時の版面点検・色調整、印刷時の抜き取り検査等を厳格に行い、精巧な仕上がりを期す。



天理時報社（奈良県）での印刷立会い  
担当編集者が刷り出しをチェック。

技術的研鑽を重ねた印刷所

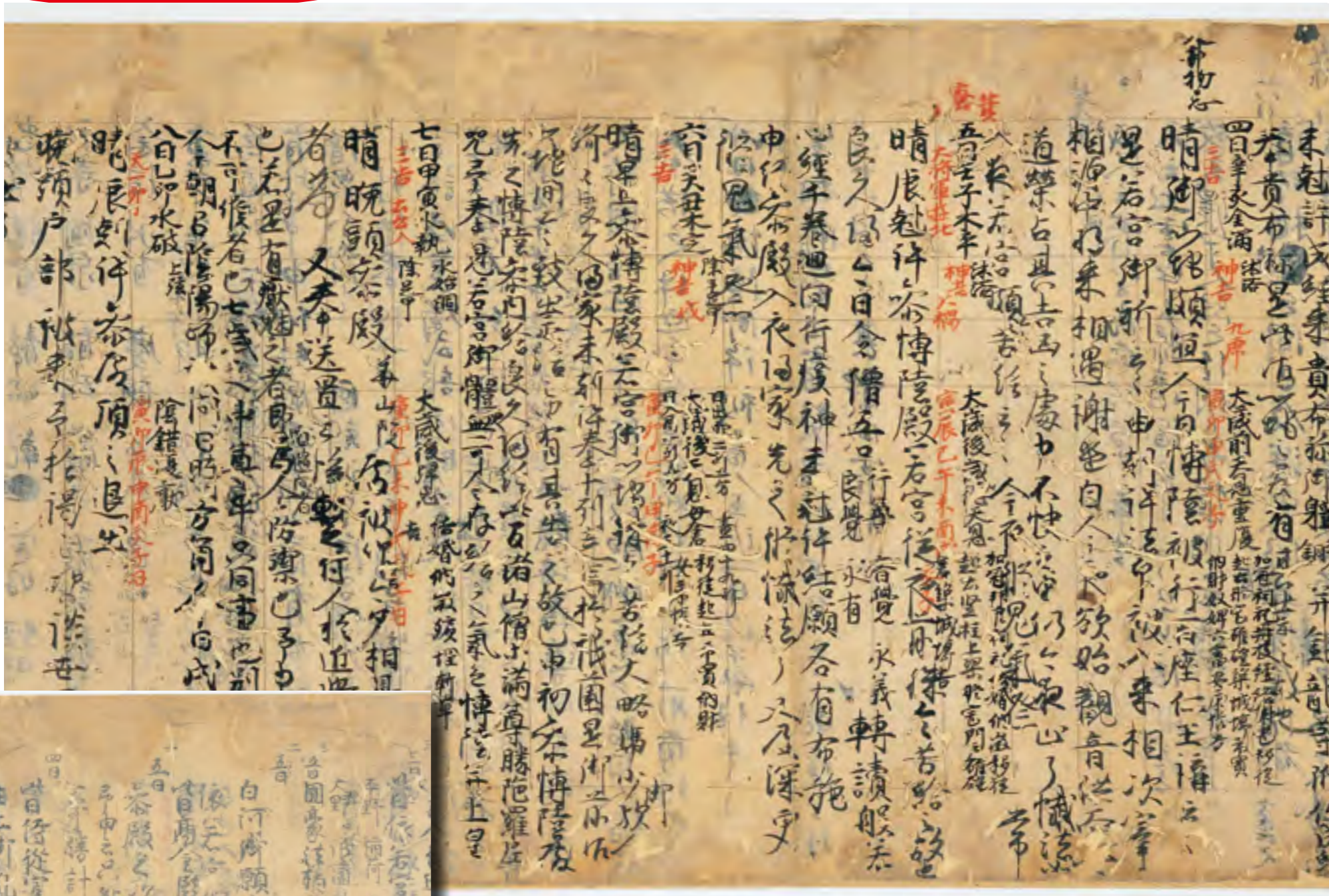
◆製版・印刷は、本集成をはじめ「新天理図書館善本叢書」「正倉院古文書影印集成」等で技術的な研鑽を重ね、優秀な実績を積んでいる天理時報社が担当。

カラー影印に最適な用紙

◆カラー版オフセット印刷に適し、かつ原本の風合いを生かせるよう、光沢を抑えた高級微塗工紙（中性紙）を使用。

堅牢な製本

◆糸かがり、上製クロス装とし、堅牢にして日常の連用・長期保存に耐える製本とする。



承暦元年九月三日—八日

一四

◆二番目に古い自筆日記

【第65冊】第5回配本

水左記

平安後期自筆二巻(国宝)・室町期写一冊

〔解題〕石田実洋(宮内庁書陵部編修課主任研究官)

平安時代後期の公卿、源俊房(一〇三五—一一二二)の日記。他に記録の少ない、撰関期から院政期への移行期を記述の対象としており、また、藤原氏の日記ではあまりみられない記事(薬師寺最勝会関係など)を有するなど、公卿にまで上りつめた源氏の日記としても貴重である。

現存諸本で最も注目されるのが、具注暦に自筆で記された暦記八巻で、うち二巻が尊経閣文庫の所蔵(他の六巻は宮内庁書陵部所蔵)。現存する公卿の自筆暦記としては、藤原道長の『御堂関白記』について古い。暦記は、記載スペースが限られることから、一日に書くべきことが多く存するとき、記述を紙背に続ける(裏書)、あるいは切断して別紙を挟み込む(継入紙)といった工夫がなされるが、『水左記』自筆暦記では継入紙はほとんどみられず、夥しい数の裏書が存する点が特徴といえよう。他に古写本は少なく、抄出本とはいえ、本冊所収の三条西家旧蔵本(室町期写)も重要な位置を占め、自筆暦記とこの抄出本とで、現存記事の大半を占める。

◆保元の乱の謀主、藤原頼長の日記

【第66冊】第6回配本

台記

1 宇槐記抄 室町期写三冊

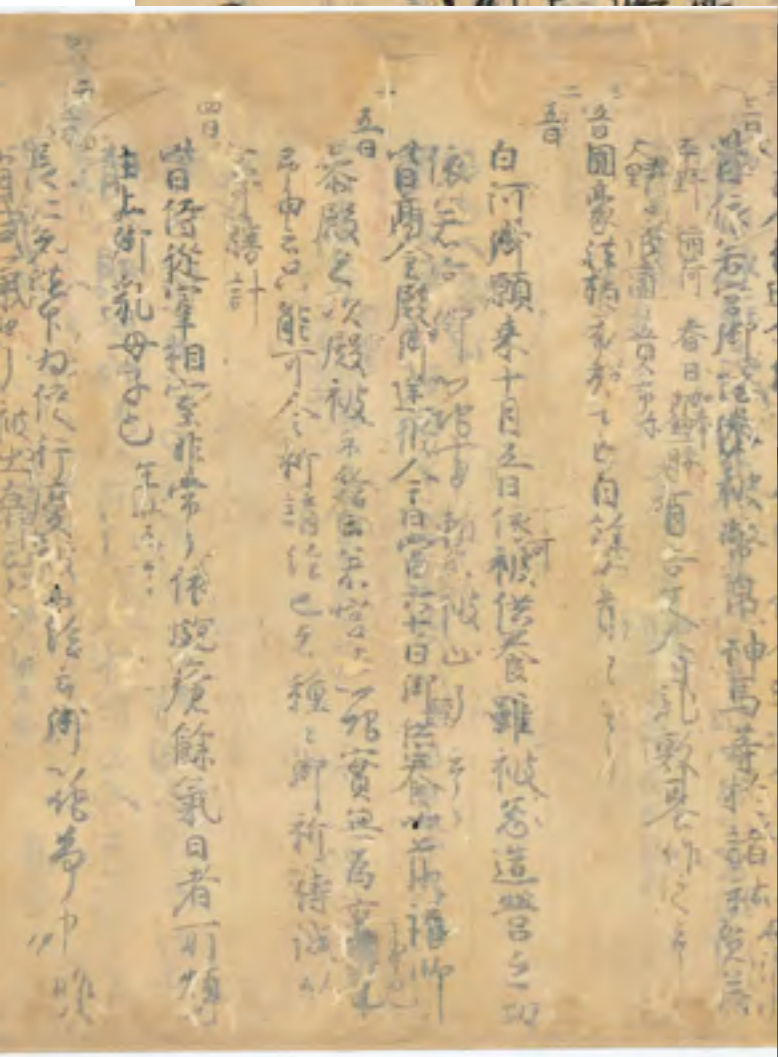
2 宇槐雑抄 室町期写一冊

3 台記抄 室町期写一冊

〔解題〕尾上陽介(東京大学史料編纂所教授)

平安時代末期の公卿、藤原頼長(一一二〇—一一五六)の日記『台記』の抄出本。『台記』は、当時の朝儀・公事の詳細を記すほか、鳥羽院政下の政治や社会事象に対する頼長独特の判断が積極的に語られており、保元の乱に至る経緯を探る第一級の史料である。

尊経閣文庫には『台記抄』一冊・『宇槐記抄』三冊(ともに三条西公家筆)・『宇槐雑抄』一冊(室町時代写)などが伝わる。『台記』の自筆本は現存せず、鎌倉時代の古写本や江戸時代以降の新写本が伝わるが、尊経閣文庫所蔵の抄出本はこれらの欠誤を補訂するところが少なくない。



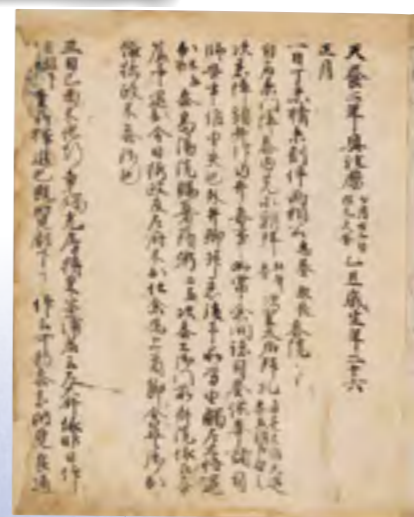
上 『水左記』承暦元年(1077) 9月3日条~8日条  
左 同上・裏書  
上図赤線の示す9月3日~5日条に対応する裏書が、左図となる(13日~11日条紙背)。3行の間空きを有する具注暦でも一日の記事がそのスペースに収まらず、紙背に書き継ぐ。この周辺は裏書が紙背を埋め尽くす勢いであり、必ずしも暦面の該当記事の真裏には位置していない。3日条や5日条では裏書が3カ条に及ぶが、やや後に追記されたものと推測される3日条の3条目には、本来あるべき位置を指示した符号が付されている。



久寿2年(1155)までの県召除目記事の抜粋 『台記抄』巻頭(保延4年〔1138〕正月記)



豊明節会における二条内裏陣座の指図 『宇槐雑抄』保延3年〔1137〕(11月16日条)



天養2年以降の記事の抜粋 『宇槐記抄』上・巻頭(天養2年〔1145〕正月記)



『水左記』抄出本 『宇槐記抄』

# 尊経閣善本影印集成

## 第八輯 平安古記録 全十一冊

定期予約募集！(分売可)

●A4判・上製クロス装・貼函入・平均二五〇頁予定

●平均本体予価三三、五四五円十税、揃本体予価三五八、〇〇〇円十税

\*第八輯全十一冊セットでご予約いただきますと、配本ごとにお届けいたします。

【配本予定】\*2回配本以後3ヶ月毎配本/冊順と配本順は異なります

第1回配本 [二〇一六年六月] ISBN978-4-8406-2356-8

第56冊 小右記一 本体三三、〇〇〇円

【所収】寛和元年・正暦元年・長徳元年・長保元年・寛弘二年

第2回配本 [二〇一六年八月] ISBN978-4-8406-2357-5

第57冊 小右記二 本体三三、〇〇〇円

【所収】寛弘八年・長和元年・同二年

第3回配本 [二〇一六年十一月] ISBN978-4-8406-2358-2

第58冊 小右記三 本体三三、〇〇〇円

【所収】長和二年・同三年

第5回配本 [二〇一七年二月] ISBN978-4-8406-2359-9

第59冊 小右記四 本体三三、〇〇〇円

【所収】長和三年・同四年

第7回配本 [二〇一七年十一月] ISBN978-4-8406-2360-5

第60冊 小右記五 本体予価三三、〇〇〇円

【所収】長和五年・寛仁元年

第8回配本 [二〇一七年十一月] ISBN978-4-8406-2361-2

第61冊 小右記六 本体予価三三、〇〇〇円

【所収】寛仁元年・同二年

第9回配本 [二〇一八年五月] ISBN978-4-8406-2362-9

第62冊 小右記七 本体予価三三、〇〇〇円

【所収】寛仁三年

第10回配本 [二〇一八年八月] ISBN978-4-8406-2363-6

第63冊 小右記八 本体予価三三、〇〇〇円

【所収】寛仁四年・治安元年・万寿元年・同四年

第11回配本 [二〇一八年十一月] ISBN978-4-8406-2364-3

第64冊 小右記九 本体予価三三、〇〇〇円

【所収】万寿四年・長元元年・附属資料

第5回配本 [二〇一七年五月] ISBN978-4-8406-2365-0

第65冊 水左記 本体三三、〇〇〇円

第6回配本 [二〇一八年八月] ISBN978-4-8406-2366-7

第66冊 台記 [宇槐記抄・宇槐雑抄・台記抄] 本体三三、〇〇〇円

### 第1輯 儀式書 全12冊



ISBN4-8406-2291-4

セット品切れ

- ①~⑥ 西宮記 [平安末鎌倉初写(重文)・大永五年写]
- ⑦⑧⑨ 北山抄 [平安末鎌倉初写(国宝)・永正年中写]
- ⑩~⑫ 江次第 [明応七年写・室町期写]

### 第2輯 類書 全5冊



ISBN4-8406-2292-2

定価(本体125,000円+税)

- ⑬ 秘府略 [平安中期写 巻八六八(国宝)・附巻八六四]
- ⑭~⑯ 二中歴 [鎌倉末期写(重文) 掌中歴 [室町末期写 残欠]
- ⑰ 拾芥抄 [天正十六・十七年写]

### 第3輯 古辞書 全8冊



ISBN4-8406-2293-0

セット品切れ

- ⑱ 色葉字類抄 [鎌倉初写三巻本(重文)・永禄八年写二巻本]
- ⑳ 節用集 [室町期写 黒本本]
- ㉑~㉒ 字鏡集 [応永二十三年・二十四年写 二十巻本]
- ㉓ 温故知新書 [室町末期写]
- ㉔ 童蒙頌韻 [弘治二年写]

### 第4輯 古代史籍 全9冊



ISBN4-8406-2294-9

定価(本体260,000円+税)

- ㉕ 日本書紀 [平安後期写(国宝)]
- ㉖~㉗ 釈日本紀 [正安三年・四年写(重文)]
- ㉘ 古事記 [室町末期写]
- ㉙ 古語拾遺 [鎌倉末南北朝初写(重文)]
- ㉚~㉛ 類聚国史 [平安末写古本(国宝) 附模写本・明応本・大永本]

### 第5輯 古代法制史料 全5冊



ISBN4-8406-2295-7

定価(本体149,000円+税)

- ㉜ 交替式 [室町後期写]
- ㉝ 法曹類林 [嘉元二年写(重文)]
- ㉞ 政事要略 [鎌倉初期写(重文)]
- ㉟~㊱ 類聚三代格 [享禄本 二十一巻]

### 第6輯 古代説話 全6冊



ISBN978-4-8406-2296-7

定価(本体138,000円+税)

- ㊲ 日本靈異記 [仁和寺心蓮院本 嘉禎二年写(重文)]
- ㊳ 三宝絵 [真字本 正徳五年写(醍醐寺蔵本の写し)]
- ㊴ 日本往生極楽記 [鎌倉前期写(重文)]
- ㊵ 新猿楽記 [弘安本・古鈔本・康永本(重文)]
- ㊶ 三宝感応要略録 [高山寺本 寿永三年写(重文)]
- ㊷ 江談抄 [寛永三年写(重文)]
- ㊸ 中外抄 [下巻「久安四年記」建暦二年写(重文)]

### 第7輯 平安鎌倉儀式書 全6冊



ISBN978-4-8406-2297-4

定価(本体234,000円+税)

- ㊹ 内裏式
- ㊺ 本朝月令要文・小野宮故実旧例・年中行事秘抄
- ㊻ 雲図鈔 ㊼ 無題号記録(院御書)・春玉秘抄
- ㊽ 春除目抄・京官除目次第・県召除目記
- ㊾ 禁秘御抄 ㊿ 局中宝
- ㊽ 夕拝備急至要抄・参議要抄
- ㊾ 羽林要秘抄・上卿簡要抄
- ㊿ 消息礼事及書礼事・大臣二人為尊者儀・大要抄・大内抄・暇服事

すべて分売承ります！(白抜は品切)

発行

# 八木書店

Yagi Bookstore Ltd.Publishing Dept.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8

●Tel: 03-3291-2961[営業] 03-3291-2969[編集] ●Fax: 03-3291-6300

●E-mail: pub@books-yagi.co.jp ●https://catalogue.books-yagi.co.jp/

取扱店